

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：有限会社 エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ヶ崎台 24-3
評価実施期間： 令和元年 5 月 23 日から令和元年 11 月 28 日 *契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050512 061163 B25107	

2 福祉サービス事業者情報（令和元年 7 月現在）

事業所名：松本市中山保育園	種別：保育所
代表者氏名：管理者 菅谷 昭 園長 滝澤 美和子	定員（利用者数）：75 名（50 名）
設置主体：松本市 経営主体：松本市	開設年月日：昭和 37 年 4 月 1 日
所在地：〒390-0823 長野県松本市中山 4978	
電話番号：0263-58-4825	FAX 番号：0263-58-4871
ホームページアドレス：	
職員数	常勤職員：8 名 非常勤職員：19 名
職員内訳等	保育士：15 名 保育補助：4 名 調理員：6 名 常勤職員の平均年齢：40,0 歳 平均在職年数：17,0 年
施設・設備の概要等	乳児室：1 室 ほふく室：1 室 遊戯室：1 室 便所：3 室 保育室：4 室 調理室：1 室 事務室：1 室 屋外遊具：すべり台、ジャングルジム、ブランコ、雲梯 砂場、鉄棒、登り棒、たいこ橋

3 理念・基本方針

<p>○ 中山保育園保育理念</p> <p>素朴で素直な中山の子ども達がたくさん心豊かに育つことを目指し、地域や保護者と共に子ども達の最善の利益を尊重し保育します。</p> <p>○ 中山保育園保育目標</p> <p>明るく元気な子ども、だれとでも仲良く遊ぶ子ども、自然と関わって遊び感動できる子ども</p>
--

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

松本市の保育目標を踏まえて、恵まれた自然環境を活かした中山地区ならではの活動として、地域との関わりを活用した体験学習では古民家でのいろりを囲んでの紙芝居や大型の絵本の読み聞かせ、アイガモ農法での田植えや稲刈り、また、自然豊かな環境を活かした蚕の飼育、畑での各種野菜の栽培、あぜ道散歩、山登りなどが行われている。

5 第三者評価の受審状況

初回

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

国のガイドラインに基づき長野県の各サービス分野の評価基準等が改訂され、評価の判断基準も異なってきたので、初めにそのことについて説明いたします。

評価細目（別添 1、2）に対する判断基準は以下の通りとなっています。

- a：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
- b：aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
- c：b以上の取組みとなることを期待する状態

つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断して a・b・c を決定しています。

そのため、当評価機関としては a の場合は取り組み状況、b・c の場合は取り組み状況と検討課題を記載しています。

そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

なお、松本市の場合、子ども子育て支援事業等により、以下の手厚い支援がある。

- ・1歳児の保育士配置は国基準を上回る園児3人に1人の配置である。
- ・アレルギー食材の除去のみでなく、代替食の提供がある。
- ・文化事業補助金を活用しての、子どもの情操教育が可能である。
- ・教育委員会による、幼保小一体での研修計画が充実している。
- ・園庭の芝生化補助金で、安全な子ども達の運動・体力作りが可能である。

さらに、公立園では以下の対応もある。

- ・楽都として年1回の音楽鑑賞会を開催して、音楽を楽しむことができる。
- ・シルバー保育サポーターの定期的な来園がある。
- ・災害時の対応として、災害女性と乳幼児に対する備蓄を各支部園に設置し、指定避難所、応急非難指定園、乳幼児対応一時避難所、一時預り指定園を定めている。

また、目指す保育士像として、「一人ひとりの生きる力を育むため、遊びや生活を子どもと共に創造し、子育てを支える人間性豊かな保育者」と謳い、子ども中心の保育の提供に向けた、資質向上の取り組みも盛んで、以下の取り組みも行われている。

研修については全保育士が必ず年1回は参加できるようにしたり、障害児保育の研修は、その受講歴のない保育士や担任、加配保育士の参加を促している。

新規採用の職員はスタートアップ研修やスキルアップ研修が用意されており、保育士を目指す者への実習支援では、その学びが詳細に綴られており、職員個人の振り返りを可能としている。

保育所職員安全衛生委員会の職場巡視が定期的に行われ、その結果を全園に周知し、さらに改善・向上を目指す取り組み、各園での事故事例やお散歩マップでの危険個所の追加、公園での事故事例、情報の共有を図る記録の統一のために、記入の手引の周知や主任の指導もある。

担当課では、松本市子ども子育て支援事業計画のダイジェスト版を通してその周知に努め、保育士の年休取得や業務軽減に向けての取り組みや、行事の見直しも始まっている。

代替保育の際は、担任が指示書に主活動、保護者対応、配慮事項、課題を抱える子どもへの留意点、アレルギー対応児への注意点などを記載し、代替者の実施内容の加筆されたものが週案ファイルへ綴られているので、後日の担任の保育へとつながっている。

◇ 特に良いと思う点

○ 中山色の保育

中山保育園は周囲が山林にかこまれており、豊かな自然環境に恵まれている。

そのため、「素朴で素直な中山の子ども達がたくましく心豊かに育つことを目指し、地域や保護者と共に子ども達の最善の利益を尊重し保育します」と理念に謳う、子どもにとっての保育環境は以下のとおりである。

季節になれば、子ども達は突然来園する、カナヘビ、トカゲ、バッタ、カブトムシなどの小動物と触れ、また、散歩の各コースは昇り降りする山道、あぜ道などで、近くの公共施設と交流したり、冒険、探索活動を盛んに行っている。

一方、豊かな自然に囲まれた環境のリスクとして、昆虫等の動物が危険をもたらすことも意識しており、スズメバチやアメシロ対策としての伐採や消毒等の対処を速やかに行うなど、子どもの命を預かる立場として安全確保に細心の配慮をしていることもわかる。

園舎の前の畑には高さ 10 メートルもあろうか大きな桑の木があり、毎年、地域の方から蚕が届き、繭になるまで飼育する子ども達は蚕に触れたり、ただ育てるだけでなく、繭は卒園児向けのコースージュとして活用するなど、貴重な体験とともにお世話になった年長児への感謝の気持ちも育っている。

栗の木もある畑では、上手に毬付きの栗の実を取り、宝物や家族へのお土産にする子どももいる。

全園児がそれぞれ野菜の栽培に関わり、年長児では日々の成長がわかりやすいようにと一人一苗を植えたり、収穫食材を給食室で調理してもらったり、以上児はカレー作りの体験もある。

散歩コースにも組み入れられているアイガモ農法の田んぼでは、地元団体の青年部の協力の下に、年長児が田植え、稲刈りを体験し、園での餅つきの楽しみも増している。

地域の運動会、バザーなどの各種行事への園児、保護者、職員の参加も多いこともあり、公民館、児童センター、小学校などの各散歩コースでの体験も豊富に用意されており、子ども達を地域ぐるみで大切にしている事も納得する。時には地域のサッカーチームによる運動教室や、古民家でのいるりを囲んでのお話の会などもある。

こういった地域社会、多様な大人と接する経験は、子どもの実体験を増やすとともに創造力を高め、描く絵や将来の夢へと繋がり、また、年長に向かう時期には感情コントロールができるようになり、思考能力の発達、言語の発達、周囲の人との関わりなど、園児の育ちに効果を上げていることは容易に確認できる。

利用者調査結果でもわかるように、園の基本的な考えを知っている方のほぼ全数とその保育に納得していると回答しており、関係は良好である。

当然、保育参観・懇談会、保育参加（保育士体験）、親子交通安全教室、歯科栄養教室と給食参観などの保護者向けの催し物の参加率も高い。

また、機関紙「吾子」を発行する保護者会連盟での毎年のアンケート集計から、指摘事項などについては報告や理解を得る取り組みもしている。

運動会などの各種行事の写真販売を園への直接注文から、ネット販売への変更にあたり、事前にアンケートを取って検討材料としたり、公立保育園の公開研究保育の日などは、保護者向けに駐車場利用についての配慮や時差降園などの取り組みも行っており、後日の園だよりでは、その際の各園からの簡単な感想や園の都合への協力のお礼を記載するなど、保護者への配慮、感謝も感じる。

こういった地域のサポーターや保護者の協力は、理念に謳う「地域や保護者と共に」の実践と理解する。

園内での養護・保育は教育的配慮を含めた環境設定、ゾーン配置が進んでおり、乳児については子どもの様子を見て次の遊びの展開を手立てしたり、目線にも配慮した環境である。

年少になると各場面に応じた音楽を流し、子ども達が自発的に次の場面にスムーズに移れるようにする配慮もある。また、毎朝、子ども達が園長、調理員へ出欠席の報告を行うこととなっている。

年中では手指の動きを意識した三つ編みや雑巾絞りを行ったり、担任と一緒に給食の運搬の手伝い、年長では昼寝の用意を手伝ったり、長い廊下や職員室の雑巾がけも難なくこなしている。

自立と自律が育ってきているので、当然、トイレのスリッパはいつも各自の整理整頓が視られる。

さらに、プール遊びなどの際は、体調等により無理な子どもには、代替メニューを用意するなど、一人ぼっちにしない細かな配慮もある。

こうした園での一日が終わる降園時には、運動会に歌う中山保育園の園歌が流れてくる。

「子どもを見る、導く、伝える、子どもを理解する事の繰り返しで、子どもを見る目を豊かにして専門性を高める」の意図のもとに、子どもの姿を肯定的にとらえるエピソード記述を導入している。

今年度から更に保育の質を高める取り組みとして、KJ法を取り入れた、参画型の話し合いで職員のモチベーションを上げる取り組みも始まっている。

KJ法が進むと、子どもの状況の捉え方のスキルも上がり、保育士の対応方法も変化し、子どもの心理状態の理解力も高まり、課題を持つ子どもへの対応も容易となってくる。

日々の子どもの姿をエピソードに変換することで、記憶を風化させない取り組みは、無駄もなく読みやすい園だよりの「ふきぼこ」や、毎月のクラスだよりの紙面で容易に確認できる。

また、保健だよりで携帯ゲームやスマホの発するメラトニンの害、1歳児からの年齢に応じた標準的な睡眠時間を載せたり、調理員が降園時に月1回、子どもに好評だった当日の給食のレシピを説明・配布したり、たけのこなどの食材は元の状態を見せてから調理を行うなどの取り組みもある。

未満児からの歯磨き指導では、保育士による仕上げ磨きや定期的な歯ブラシの確認により保護者への交換の勧めもある。

レシピ通りに作っても、和・洋・中の各料理人では、スタートが同じであっても最後にできるものが異なることと同様に、中山保育園では求められる価値を意識し、環境を最大限に活かした中山色の保育の提供が行われている。

◇ 特に改善する必要があると思う点

○ 成した後の検証及び情報提供

日々子どもに関わっている保育士に比べて、自分の子どもだけを見ている保護者にとっては驚くほど発達の早い成長に気づかないものである。

そのため、保育士にとって当たり前のことでも、保護者は知らないことも多いと意識して、各種の配布物にエピソード記述を取り入れていることもわかる。

利用者調査結果においては園への多くの感謝の気持ちとともに、各種ご意見も上がっている。

また、園で行っている事の周知不足による不安もある。

公立園のため冷暖房については予算化も必要で、各園順番であり、数年先のこととの説明も理解できる。

しかし、定期的に行う不審者や安全面に対しての訓練の実施や、提供する保育について当たり前と思っていることを周知することは更に必要であろう。

例えば、訓練の見学を募ることで、保護者からの新たな視点での対策が得られる可能性もある。

また、日々の散歩、おにぎりデー、遠足の案内では、子どもの歩行キロ数、所要時間、学校区での最遠距離、それら園外保育のねらいなど、園と保護者との情報内容の共有を意識した取り組みも期待したい。

なお、利用者調査結果にあった、「小学校の行事と連続しての園行事」、「家庭での育児についてのアドバイス」など、保護者支援を更に意識した今後の対応・回答も必要と感じる。

園での取り組み、特に、事故、意見・苦情等の際の仕組みの改善も期待したい。

内容、対応だけでなく、子どもが原因であれば対象児の再発要因は治ったか、保育士が原因であれば注意するだけでなく、その後の保育士の対応が良くなっているか、施設面でいえば、原因が再発する可能性はないかなど、事後の検証の仕組みである。

子ども、保護者は、提供する福祉サービスの消費者であるという意識の高まりを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

第三者評価を受けてまず感じたことは、私達が特別に意識していなかった部分に着眼点があり、ご指摘によって考えるべきことが明確になったということでした。また、保護者アンケートにより、なかなか直接伝わる事が無い本当の保護者の方々の思いを知るに至り、職員一人ひとりが自己を振り返るとともに、全員で園のあり方を考えるきっかけとなりました。

園の特色を評価していただく中で、自然や地域との関わりにおいて、現状に甘んじることなく、必要とされる取り組みを吟味し、実践に結び付けることが今後の課題と考えます。

地域に根ざした保育園であるからこそ、園から発信できることを模索し、さらに地域との連携が深まるよう検討を重ねたいと思います。

保護者からの意見に関しては、多くの賛同は頂いたものの、そうではないとする意見がある中で、では、どうしたらすべての方が理解し、ともに子どもの育ちを支え合うという関係を確かなものにできるか、このことも今後の課題として職場全体で考え、家庭へ返していかなければならないことと捉えております。

また、従事する職員についても、心身の健康が保たれるよう考慮し、今回ご指摘いただいたことをもとにして、学び合い、検討し合い、実践しながら、職場内の改善が進むよう努めたいと思います。